

ネットワークに映し出される社会

スマートフォンを大学の教育研究でフル活用しようという本学の「スマートキャンパス」計画は、2016年9月18日にクラウドサービス mwu.jp の開始で本格始動しました。

それは、スマホがキャンパスのどこでも使える Wi-Fi 環境の整備と一体になったプロジェクトです。今や、スマートフォンはひとつの PC 端末となり、それを個人が持ち歩く時代となりました。

しかし、スマホの力はまだまだ不足しています。データ保存はクラウドに頼り、複雑な処理はネットワークの接続先の「ホスト」が処理をしています。しかし近い将来、スマホ自体の処理能力が高まってクラウド上の外部システムに頼らなくてよくなり、データの保存容量も飛躍的に増大してスマホの中に保存できるようになるでしょう。

そうなればかつての有線時代、中央にあるホストコンピュータに非力の端末が接続していた状況から、各端末が十分な処理能力を持って個々に処理を行うパーソナルコンピュータの時代となったように、無線による膨大なネットワーク全体の中で、一種の「人格」を持つ「スーパースマホ」の時代が到来すると思われれます。

それらのスーパースマホは、自立的に自分で知能を持ち、必要なデータを収集します。そして自分の「記憶」はクラウドの保存領域にたよらず、自ら持つこととなります。そして、その意思決定を「ご主人」に知らせてくれるようになる。スーパースマホは、個々に「人格と知能」を持つ時代となることでしょう。

そんな時代を想像すれば、こんな危惧も出て来ます。ひとびとの行動は明らかにいくつかのパターンに収束されていきます。生活における行動は、そのスーパースマホのメーカーや機種によって決まることとなります。そして高価な機種は「賢く」、低価格であればそれなりのものになってしまう。賢いカーナビかそうでないカーナビのように、貧富の差がそのまま、人々の生活の行動のパターンに反映される時代となるでしょう。つまりは、ネットワークというバーチャルなワールドに、スーパースマホという「個人」が出現するとともに、いくつかの「社会階層」が出現する。現実の人間社会の人間の行動パターンや貧富の差が、ネットワークの構造に映し出される状況となるかもしれません。

ICT技術をベースとして、営々と築きあげられ続ける情報ネットワーク。私には、「コンピュータシステムは、私たち人間社会のメカニズムとその構造をきれいに映し出す鏡である。」と思えるのです。

情報教育研究センター長

丸山健夫